

研究者名※	今井康雄	学位※	博士(教育学)
所属※	人間社会学部 教育学科	職名※	教授
連絡先	imaiy@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/ 1955_Yasuo_Imai		
研究分野※	教育哲学・教育思想史		
研究キーワード※	教育哲学 教育思想史		
共同研究・競争的資金等の研究課題	自然科学的人間観と人間形成論の関係に関する理論的・思想史的研究 日本学術振興会 科学研究費補助金 2018年4月 - 2022年3月 教育空間におけるモノとメディア——その経験的・歴史的・理論的研究 科学研究費補助金 2015年4月 - 2018年3月 ワイマール期・ナチズム期ドイツの映画教育に関する思想史的研究 科学研究費補助金 2011年 - 2013年 教育における「力」の概念に関する学際的研究 科学研究費補助金 2008年 - 2010年 「メディアの教育学」分析のための理論的・経験的研究 科学研究費補助金 2005年 - 2007年 「美的なもの」の教育的影響に関する理論的・文化比較的研究 科学研究費補助金 2002年 - 2004年		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴			

研究領域	教育哲学・教育思想史	(SDGs)
研究テーマ※	自然科学的人間観と人間形成論	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 本研究は、19世紀後半～20世紀初頭ドイツにおける自然科学的人間観の浸透とそれに対する人間形成論(Bildungstheorie)の側の対応を思想史的に解明し、そのことを通して、現代における同様の問題状況に対する一定の理論的展望を得ることを目的とする。現代において、自然科学的な人間研究は、その研究成果のみならず、その研究方法においても、教育の領域に深い影響を与え始めている。教育の意義を測定可能な結果(いわゆる「エビデンス」)に還元するような教育についての見方が浸透するとともに、これに対する批判や反発も強まっている。このような対立状況の一つの源流を、実験心理学や進化論が勃興した19世紀後半に見ることができる。人間形成論の伝統を持つドイツでは、自然科学的な人間観の浸透に対する抵抗も根強かった。当時のドイツの状況を再構成し、それを現代の理論水準と交錯させることで、自然科学的人間観と教育との適切な関係とはいかなるものか、またそれをいかに築くかについて説得力のある展望を提示したい。	
本研究関連 特許・論文等		
共同研究・外部機関との連携への期待		